

国 語 科

生徒の「言語」の充実を図る授業について

—「キャッチコピー」を通して—

石 川 嘉 一

1 はじめに

中学校で今年度より全面実施されている新学習指導要領では、全教科等において「言語活動の充実」が求められている。言語は知的活動（論理や思考）の基盤であると共に、コミュニケーションや感性・情緒の基盤でもあり、豊かな心を育む上でも、言語に関する能力を高めていくことが重要なのである。そして、その中核として国語科の持つ重要性が増していることは言うまでもない。

しかし、生徒の実態を見ていると「言語活動」の充実以前に、まず語彙を増やす、語感を磨くといった、いわば「言語」の充実が必要ではないかと考える。このことは、平成18年から19年にかけて8回開催された文部科学省言語力育成協力者会議においても、その報告書案の中で「子どもを取り巻く環境が大きく変化するなかで、様々な思いや考えをもつ他者と対話をしたり、我が国の文化的伝統の中で形成されてきた豊かな言語文化を体験したりするなどの機会が乏しくなったために、言語で伝える内容が貧弱なものとなり、言語に関する感性や知識・技能などが育ちにくくなってきている。このため、言葉に対する感性を磨き、言語生活を豊かにすることが大変強く求められている」と述べられている¹⁾。

そこで、本研究ではメッセージを端的な言葉で表している「キャッチコピー」を教材として用い、生徒の「言語」の充実を図る授業について考察を行いたい。

2 研究の方法

(1) 対象生徒

中学校1年生 41名（1クラス）

(2) 教材について

本単元は、広告のコピーについて考えることにより、その辞書的な意味にとどまることなく、奥に込められているメッセージや、受ける印象について目を向けて考えさせることができるものである。それにより、生徒の「言語」の充実を図ることのできる単元であると考えた。

本単元の学習に当たって、「心に残る広告がある」と答えた生徒は8名、「言葉の意味をよく考えて使っている」と答えた生徒は35名であった（平成24年9月18日実施41名）。

しかし、日常の学校生活を見てみると、ある決まった語句でしか表現しようとしなない生徒や、言葉の与える影響を考えずに軽い気持ちで発言する生徒の姿があった。語彙が不足しているのではないかと、語感が磨かれていないのではないかとといった場面が見られたのである。

次に指導に当たっては、新聞広告の読み取りから、興味を持たせて考えさせた。この広告が表現したいことを考えていく中で、言葉には辞書的な意味だけではなく奥に込められたメッセージや意図があるということについての認識を深めさせた。今後の日常生活においては、軽い気持ちで相手に与える影響も考えずに発言するという行為を振り返ることができたらと考えている。

また、学んだイメージのふくらませ方をもとにして実際にコピーを作るという活動を最後に取り入れた。

<第2次 広告が表現しようとしていることについて考える>

第1次においては、先にテーマを押さえた上でそれぞれの広告を見る、という流れで活動を行わせた。第2次では、逆に広告を数点見ていく中でそれぞれの分析を行い、共通して表現されているテーマについて考えるという流れで進めようと考えた。

そこで、二つの広告についてプレゼンテーションソフトを用いて提示した(図4~7)。教材は、同じ新聞広告コンテストの、別の年度・別のテーマでの入賞作品である²⁾。

まず、それぞれの広告について、一目見て全体から受ける感じについてまとめ、その後詳しく分析をして内容を読み取り、共通のテーマが何か考えるという流れで進めた。



図4 牛乳パックの描かれた広告



図5 図4左下の文字の拡大部分

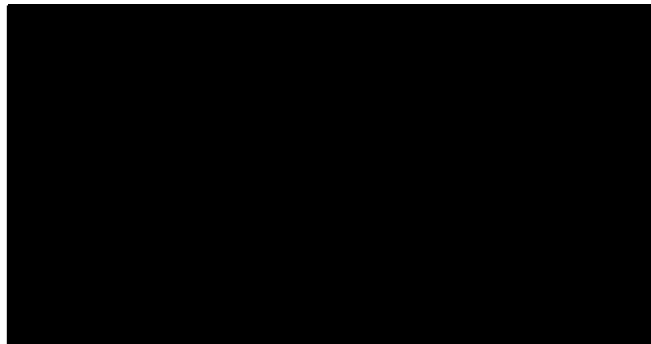


図6 「チキュウタンジョウ」から始まるしりとの書かれた広告

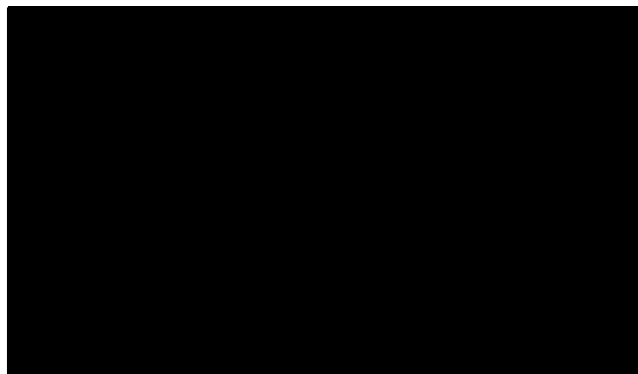


図7 図6と同じ広告の最後の部分、「ニンゲン」で終わっているところ

〔生徒の考え〕

一目見ての感じ

図4について

- ・割引されているものを買おうとしているのではないか。
- ・複雑なものがないコピーである。
- ・次の人に新しいものを譲ろうということではないか。
- ・早く飲まないといけない。

図6・7について

- ・小さい文字は生き物の大きさを表しているのではないか。
- ・読むのが大変だけど興味を引かれる。
- ・しりとりになっている。

詳しく分析すると

図4について

- ・捨てられる量が減る。

- ・地球のことを考えている。
- ・生産者のためになるが、消費期限が短いものを買ってもしすぐ捨ててしまったら消費者のためにならない。

図6・7について

- ・地球誕生からのしりとり。
- ・人間で終わらせてはいけない。
- ・さらに続けるにはどうしたらよいか。

そして、班ごとに共通のテーマについて考えさせ、代表者に黒板に貼らせることとした。

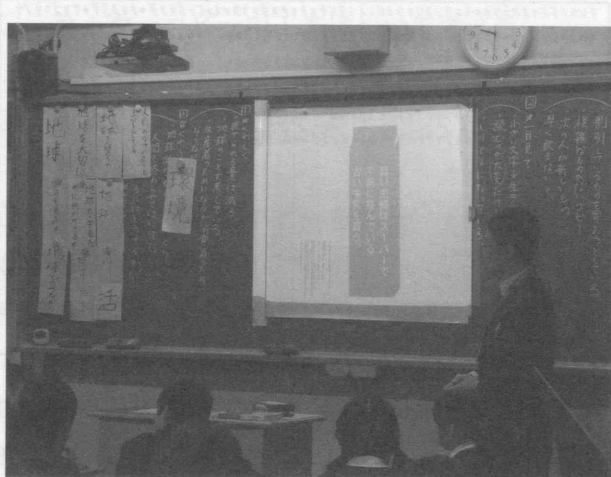


図8 授業時の様子

各班とも、「地球を大切に」「地球を守るためにながができるか」など地球に目を向けたテーマではないかと考えていた。実際はこの年のテーマは「環境」であったのだが、生徒の思考はほぼそれに近いものであったと考えられる。

<第3次 実際にコピーを考える>

第2次までで、コピーについて発想の仕方や、どういったテーマをもとに作られているかなど既存のものについて学ぶ活動を行った。そこで第3次では、これまで学んだことを生かして実際にコピーを考える活動に取り組ませた。

しかし、ただ何かについて考えるだけでは学びの場としては物足りないので、実際に応募するような課題を設定することで学習に対する意欲を高めることとした。そこで、募集されていたもののうち、「全国统一防火標語」に応募することを決

め、生徒に考えさせることとした³⁾。この標語の入選作品は2013年度の「全国统一防火標語」として、全国44万枚の防火ポスターに掲載されることをはじめ、広く防火PRに使用されるということで意欲的に取り組んでいた。

作成手順は、まず第1次で学んだことを生かし、伝えたいテーマを考えさせた。次にそのテーマからのイメージをふくらませ(図9)、標語に取り入れる言葉を考えさせた。そして最後にリズムを整えて標語に仕上げさせた。

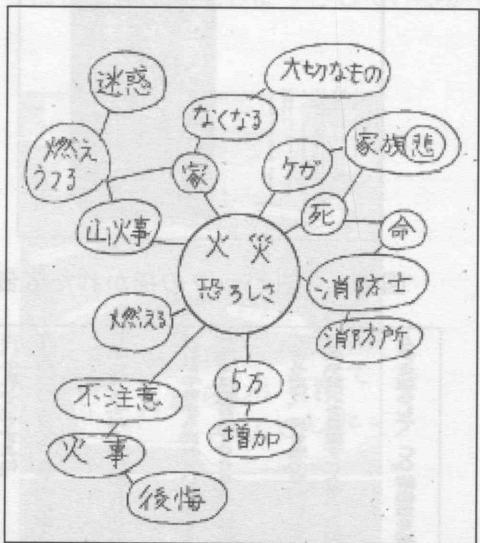
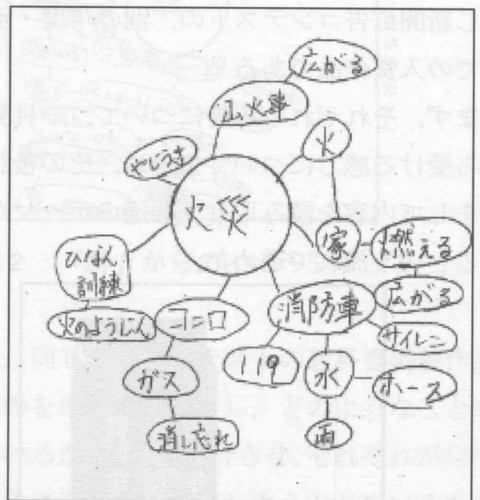


図9 発想を広げる

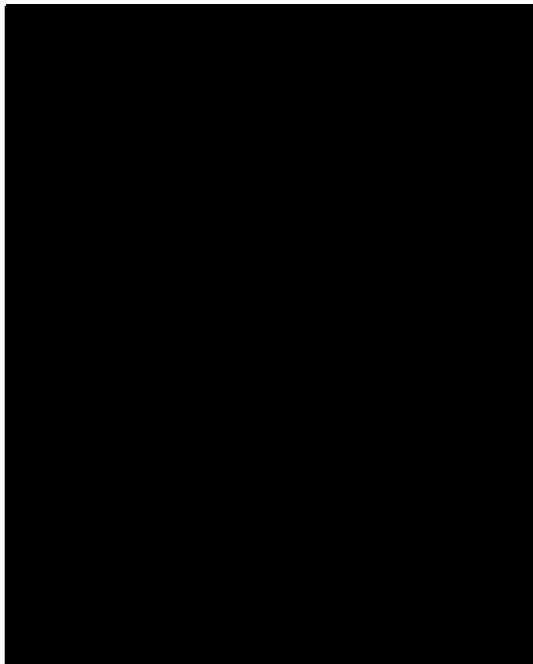


図10 2012年度防火ポスター

生徒の標語案

- ・消してないあわてたときはもう遅い
- ・赤い炎あつという間に家つつむ
- ・消さないとあなたの幸せ燃えてしまう
- ・消さないとみんなの笑顔がなくなるよ
- ・知ってるの？不注意で起きた火事の数
- ・消したかな？はてながつければ見に行こう
- ・「消しました」火災の天敵合言葉
- ・火は消したほんとに消した？もう一度
- ・考えた？このあと何が起きるのか
- ・「消したかも」それが危険の第一歩
- ・その気持ち火はいつまでもねらってる
- ・一つの火世界の火災俺が阻止
- ・まあいいか少しの油断が火事のもと

生徒は、火災の恐ろしさや油断が原因で火災が発生することなど、それぞれの火災に対するイメージをふくらませて標語を作成していた。私も、「『もう消した』思いこむ心につけこむ火」という標語を作成し、一緒に応募した。

審査結果の発表は3月下旬とのことである。生徒も待ち遠しく思っており、「先生、防火標語はどうなった？」と単元を終えて

数ヶ月たった今でも聞かれることがある。私も生徒と共に発表を待ちたいと思っている。甘いものではないことはもちろん承知の上だが、この授業の中から誰かが入選してくれるなら最高の成果である。

(6) 成果と課題 (○は成果を表し, ●は課題を表す)

- イメージマップなどをもとにして、一つの言葉の奥にある気持ちや、どのようにしてその表現が生まれたのかといった深いところに目を向けることができた。
- 言葉の表面に表れた意味だけでなく、深い意味を考えることができた。
- 最後に標語に応募するという活動を通し、やらなければならない、またやりたいという意欲を持って考えることができた。「実の場」を設定することができたのではないかと考える。
- 広告の分析を行うときの視点をはっきり定まっておらず、受ける印象や感で終わってしまったので、文字の大きさやフォント、また全体の色合いや構図などいくつかの視点を持たせた方がより深められた。
- 第二次において、共通するテーマはかなり早い段階で生徒たちはつかんでいるようだった。共通のテーマは何か考えさせるという課題自体が適切であったのかどうかを検討する必要がある。
- 最後の標語作成の際に、表現の工夫（韻を踏む、掛詞を使う）にも目を向けさせ、「うまいコピー」とはどういったものかを考えさせるという過程を経るとまたいっそう素晴らしい標語ができあがったのではないかと考える。

3 終わりに

本稿は、メッセージを端的な言葉で表している「キャッチコピー」を教材として用い、生徒の「言語」の充実を図る授業について考察を行うものであった。

生徒は、ひとつひとつの言葉の裏にはいろいろな思いが繋がっていることについて考えることができ、深い意味に目を向けることもできたのではないかと考える。

しかし、それは今回のコピーについての授業だけであって、日常の言語生活の中にまで効果が表れているかという点はまだまだであると思われる。今後も、日々の授業はもとより、その他学校生活全般においても言語の充実を図っていきたい。その際、私も言語環境としての教師の役割をしっかりと果たせるよう、日々の発言には気を配っていかねばならないと思っている。

<引用・参考文献等>

- 1) 言語力育成協力者会議（第8回）配付資料，
文部科学省，2007，
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/036/shiryo/07081717/004.htm.
- 2) 2006年度新聞広告クリエイティブコンテスト入賞作品，日本新聞協会広告委員会，2006，
<http://www.pressnet.or.jp/adarc/adc/2006.html>.
- 3) 2013年度全国統一防火標語募集，一般社団法人 日本損害保険協会，2012，
http://www.sonpo.or.jp/news/release/2012/1209_01.html.